

厳しく、楽しかったコンサートの練習

細越 健志（新34回生）

つ先輩になつている）に放送室みたいな部屋に呼ばれ、「入ると言うまで帰さない。」など脅され、しぶしぶ入部を承諾してしまつたからです。

私の高校時代の思い出というと、三年間ク

で、私にとっては実は不本意なものでした。

ラブ活動中心の生活を送ってきたため、クラブ活動以外の思い出がほとんどありません。

なぜかというところ、私は岩高へ一浪して入学したため、「このままではやばい。クラブなどやらず三年間まじめに勉強しよう。」と思つ

私が岩手高校吹奏楽部に入部したきっかけ

ていた矢先、中学時代の同級生（高校では一

は、一つ上の先輩に無理やり勧誘されたから

分の生活に欠かせないものに一八〇度変わってしまったわけですから、こうなるきっかけ

をつくってくれたその先輩に感謝しなければならぬかもしれない。

さて、高校三年間のクラブ活動で一番の思い出というと、何ととっても一年生の冬に盛岡二高と合同で演奏したウインターコンサートです。ウインターコンサートはそれまで、盛岡地区の高校が単独で順番にステージに上がり、何曲か演奏するという形の合同コンサートでしたが、一年生のときから二〜三校が一緒にステージに上がり、同じ曲を演奏するという形に変わったのです。

コンサートの本番についてはほとんど記憶がありませんが、二高生が岩高に来て行った真冬の厳しい（が、とても楽しい）練習や、練習以外での年頃の男女の付き合いに関わるいろいろな出来事については、これだけで一

冊の本が書いてしまうほどですので、これくらいで終わりにしたいと思います。

もう一つの思い出というと、夏の定期演奏会と並び吹奏楽部の最も大きな年中行事である「吹奏楽コンクール」です。吹奏楽部は音楽をするクラブであり、学校間に強い部弱い部というのは本来ないはずですが、このコンクールがあるため、吹奏楽部にも強い部弱い部があります。在学中の三年間は巡り合わせて恵まれたせいか、Bクラスという中位の出場人数の部で県代表となり東北大会に進むことができました。

コンクールでは本当に燃えたものです。二年生のときは、コンクールで演奏する候補曲の楽譜を借りるため、三年生の先輩（部長）と秋田の湯沢高校まで行き、帰りの列車の中

で楽譜を手にし異常に興奮したものです。

私は二つ以上のことに集中して取り組むことが苦手なため、高校の三年間勉強は試験前しかしたことがなく、専ら部室に通ってばかりいました。当時の吹奏楽部は、とにかく練習するしかない、といった気風があり、私もコンクールで他校に勝つにはそれしかないと考えていました。

クラブ活動での当時の自分は、本当に一途で純粹だったなあと思います。前に述べた思いが強く、後輩や同級生に無理を強いたことがあったかもしれません。

卒業後一五年近くたった今よく考えてみると、高校時代はいきなり結果を求めるのではなく、もつと基本的な事柄を体系的に学び、欲を言えば部員みんなが音楽的・人間的に向上できるように、そんなクラブ活動が理想ではないかと思えます。（決して当時のクラブ活動を否定しているわけではありません。）卒業して社会人になると、自分の趣味の時間をつくるのに本当に苦労します。私の場合は特定の団体に所属せず、暇を見つけては近くの山に行つて自分の楽器を吹いています。現在も自分が楽器を続けて行けるのは、高校時代クラブ活動に全力を尽くし、苦しいことや楽しいことを沢山経験したからだと思います。

